

## 議案第 1 号

令和 7 年 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について  
(地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金)

地域公共交通確保維持改善事業による支援を受けた事業については、毎年度、自ら事業の実施状況の確認・評価を行ったうえで、その結果を補助金の交付を受けようとする会計年度の 1 月末までに、地方運輸局に報告する必要があります。

このことから、本協議会にて令和 7 事業年度の評価についてご審議いただくものです。

- ◆事業期間 令和 6 年 10 月 1 日～令和 7 年 9 月 30 日
- ◆事業者名 宇和島市、宇和島自動車株式会社
- ◆運行内容
- 宇和島市コミュニティバス
- 定時定路線型 9 系統 ※補助対象路線 1 系統  
(大河内線・大良線・筋線・筋線(花組経由)・川之内線・音地線  
・大藤線・増田線)
- デマンド型 3 系統 ※補助対象路線 3 系統  
(別当線・大河内線・川平線)
- 宇和島自動車路線バス
- 定時定路線型 1 系統 ※補助対象路線 1 系統  
(本九島線)
- ◆補助申請額 8,370 千円 (補助対象額 21,189 千円 39.5%)
- 宇和島市コミュニティバス 3,467 千円 (補助対象額 8,778 千円)
- 宇和島自動車路線バス 4,903 千円 (補助対象額 12,411 千円)

○定時定路線型 9系統

運行主体	路線名	運行回数(回)					利用者数(人)						事業評価	補助対象
		計画	実績	補助要件	実績-計画	達成率	計画	実績	補助要件	実績-計画	【参考】前年実績	達成率		
宇和島市	大河内線	610.0	607.5		△ 3	99.6%	1,220	539	1,215	△ 681	633	44.2%	C	
	大良線	1,464.0	1,458.0		△ 6	99.6%	3,500	3,451	2,916	△ 49	3,560	98.6%	A	○
	筋線 花組 経由	976.0	607.5		△ 4	99.6%	1,944	1,160	1,215	△ 637	1,378	67.2%	C	
			364.5					147	729		198		C	
	川之内線	926.0	923.0		△ 3	99.7%	1,852	794	1,846	△ 1058	883	42.9%	C	
	音地線	1,170.0	1,165.0		△ 5	99.6%	2,340	704	2,330	△ 1636	1,241	30.1%	C	
	大藤線	732.0	726.0		△ 6	99.2%	1,464	883	1,452	△ 581	1,108	60.3%	C	
	増田線	732.0	726.0		△ 6	99.2%	1,464	640	1,452	△ 824	502	43.7%	C	
宇和島自動車	本九島線	3,220.0	3,217.5	△ 3	99.9%	30,526	32,677	6,435	2151	30,850	107.0%	A	○	

○デマンド型 3系統

運行主体	路線名	運行回数(回)					利用者数(人)						事業評価	補助対象
		計画	実績	補助要件	実績-計画	達成率	計画	実績	補助要件	実績-計画	【参考】前年実績	達成率		
宇和島市	別当線	1,170.0	1,104.0	351	△ 66	94.4%	1,600	1,510		△ 90	1,759	94.4%	A	○
	大河内線	20.0	36.0	6	16	180.0%	30	38		8	2	126.7%	A	○
	川平線	100.0	67.0	30	△ 33	67.0%	200	84		△ 116	169	42.0%	C	○

【補助要件】

- 定時定路線型：運行1回あたり2名以上の利用。 ※運行1回=1往復=1循環(三間)
- デマンド型：計画運行回数の30%の稼働。

【事業評価】

- A評価 … 利用者数の計画に対する実績達成率が90%以上
- B評価 … 利用者数の計画に対する実績達成率が70%以上~90%未満
- C評価 … 利用者数の計画に対する実績達成率が70%未満

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月 日

A: 事業が計画に位置付けられた目標を達成した(する見込み)  
 B: 事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった(一部達成できない見込み)  
 C: 事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった

協議会名: 宇和島市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況			⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)			
				<路線別>利用者数	<地区別>収支率	<地区別>公的負担額				
宇和島市	(大河内線) 吉田駅～立間小学校～大河内	利用案内の市HP掲載、広報誌で案内・利用状況の回覧、転入者へ公共交通マップ配布により利用促進を図ったほか、Googleマップへ掲載を継続して実施した。	A	計画通り事業は適切に実施された。	C	【目標達成率】44.2% (目標:1,220人/年) 【実績】539人/年 (対前年比:85.2%)(対前々年比:81.8%) 【1便あたり】0.44人 (前年:0.52人)(前々年:0.54人) 利用者の多くは高齢者。利用頻度の多かった方の施設入所等により、利用者数が減少し目標を下回った。	<吉田地区> 【目標値差】▲6.1% (目標:16.2%) 【実績】10.1% (対前年差:▲2.2%)(対前々年差:▲1.9%) 利用者減少に伴う運賃収入の減少及び人件費や物価の高騰により、目標値に対し収支率が下回った。	<吉田地区> 【目標値差】+881,502円 (目標:7,600,000円) 【実績】8,481,502円 (対前年差:+554,813円) (対前々年差:+861,742円) 人件費・物価高騰の影響により、委託料を中心に経常費用が増加し、目標値以上に支出があった。	利用者数の減少が続いている。今後、必要に応じて地元住民と協議を行い、定時定路線のデマンド化または一部デマンド便の見直しを検討する。	(全体) ・今後も利用促進に係る啓発(広報・HP等を活用した情報提供)を行う。 ・宇和島市が運行するコミュニティバスにおいては、地域公共交通計画策定に際して行ったアンケート調査結果を参考にしつつ、必要に応じて地元住民と協議を行い、フリー乗降区間や路線の見直しを検討する。
	(大良線) 吉田駅～吉田中学校～大良		A	計画通り事業は適切に実施された。	A	【目標達成率】98.6% (目標:3,500人/年) 【実績】3,451人/年 (対前年比:96.9%)(対前々年比:98.9%) 【1便あたり】1.18人 (前年:1.23人)(前々年:1.19人) 利用者の多くは高齢者。利用頻度の多かった方の施設入所等により、利用者数が減少し目標を下回った。				
	(筋線) 吉田駅～吉田中学校～筋		A	計画通り事業は適切に実施された。	C	【目標達成率】67.2% (目標:1,944人/年) 【実績】1,307人/年 (対前年比:82.9%)(対前々年比:109.0%) 【1便あたり】0.67人 (前年:0.81人)(前々年:0.61人) 利用者の多くは高齢者。利用頻度の多かった方の施設入所等により、利用者数が減少し目標を下回った。				
	(筋線) 吉田駅～鳥首口～筋		A	計画通り事業は適切に実施された。	C	利用者の多くは高齢者。利用頻度の多かった方の施設入所等により、利用者数が減少し目標を下回った。				
	(大河内線/デマンド)	A	利用案内の市HP掲載、広報誌での案内の回覧により利用促進を図った。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	【目標達成率】126.7% (目標:30人/年) 【実績】38人/年 (対前年比:1900.0%)(対前々年比:760.0%) 【1便あたり】1.06人 (前年:1.00人)(前々年:1.00人) 新規利用者の獲得により利用者数が増加し、目標を上回った。		※(大河内線)と同様	
(川平線/デマンド)	A		A	計画通り事業は適切に実施された。	C	【目標達成率】42.0% (目標:200人/年) 【実績】84人/年 (対前年比:49.7%)(対前々年比:61.8%) 【1便あたり】1.25人 (前年:1.29人)(前々年:1.37人) 利用頻度の多かった方の施設入所等により、利用者数が減少し目標を下回った。				

	(川之内線) 道の駅みま～川之内～道の駅みま	利用案内の市HP掲載、広報誌で案内・利用状況の回覧、転入者へ公共交通マップ配布により利用促進を図ったほか、Googleマップへ掲載を継続して実施した。	A	計画通り事業は適切に実施された。	C	【目標達成率】42.9% (目標:1,852人/年) 【実績】794人/年 (対前年比:89.9%)(対前々年比:147.6%) 【1循環あたり】0.86人 (前年:0.95人)(前々年:0.58人)  定期通学利用の小学生が減少したことに加え、利用頻度の多かった高齢者の施設入所等により、利用者数が減少し目標を下回った。	<三間地区>  【目標値差】▲7.4% (目標:12.5%) 【実績】5.1% (対前年差:▲1.7%)(対前々年差:▲0.3%)  利用者減少に伴う運賃収入の減少及び人件費や物価の高騰により、目標値に対し収支率が下回った。	<三間地区>  【目標値差】▲647,070円 (目標:9,400,000円) 【実績】8,752,931円 (対前年差:+567,006円) (対前々年差:▲689,462円)  人件費・物価高騰の影響により、委託料を中心に経常費用が増加したものの、想定以上に経常費用が増加しなかったため、目標値を下回った。	
	(音地線) 三間支所～音地集会所～宮野下駅前		A	計画通り事業は適切に実施された。	C	【目標達成率】30.1% (目標:2,340人/年) 【実績】704人/年 (対前年比:56.7%)(対前々年比:39.7%) 【1循環あたり】0.6人 (前年:1.06人)(前々年:1.51人)  定期通学利用の小学生が減少したことに加え、利用頻度の多かった高齢者の施設入所等により、利用者数が減少し目標を下回った。			利用者(小学生)が減少したこと に伴い総利用者も減少している。 今後、必要に応じて地元住民と 協議を行い、路線の見直しを検討 する。
	(大藤線) 道の駅みま～大藤集会所～もみの木前		A	計画通り事業は適切に実施された。	C	【目標達成率】60.3% (目標:1,464人/年) 【実績】883人/年 (対前年比:79.7%)(対前々年比:94.2%) 【1循環あたり】1.22人 (前年:1.53人)(前々年:1.28人)  利用者の多くは高齢者。利用頻度の多かった方の施設入所等により、利用者数が減少し目標を下回った。			
	(増田線) 道の駅みま～増田集会所～三間支所		A	計画通り事業は適切に実施された。	C	【目標達成率】43.7% (目標:1,464人/年) 【実績】640人/年 (対前年比:127.5%)(対前々年比:216.9%) 【1循環あたり】0.88人 (前年:0.69人)(前々年:0.40人)  ロコミによる新規利用者を獲得したことから、利用者数は毎年増加しているものの目標は下回った。			
	(別当線/デマンド)	利用案内の市HP掲載、広報誌での案内の回覧により利用促進を図った。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	【目標達成率】94.4% (目標:1,600人/年) 【実績】1,510人/年 (対前年比85.8%)(対前々年比:95.9%) 【1便あたり】1.37人 (前年:1.39人)(前々年:1.28人)  運行日数の変更及び利用者の施設入所等により、利用者数が減少し目標を下回った。	<別当地区>  【目標値差】▲2.2% (目標:8.2%) 【実績】6.0% (対前年差:▲1.3%)(対前々年差:▲2.1%)  R7.4月以降、土曜日が運行休止となったが人件費や物価の高騰により経常費用が減少せず、運賃収入が減少したこと収支率が低調となった。	<別当地区>  【目標値差】+579,901円 (目標:4,600,000円) 【実績】5,179,901円 (対前年差:+93,237円) (対前々年差:+485,294円)  土曜日が運行休止となったが人件費や物価の高騰により経常費用が減少せず、目標値以上に支出があった。	
宇和島自動車(株)	(九島線) 本九島～きさいや広場	運行システムのナンバリングを行い、利用者が利用しやすい環境を整えた。	A	計画通り事業は適切に実施された。	A	【目標達成率】107.0% (目標:30,526人/年) 【実績】32,677人/年 (対前年比:105.9%)(対前々年比:107.0%) 【1便あたり】10.16人 (前年:9.60人)(前々年9.48人)  コロナの規制緩和や利便性向上に努めた結果、利用者数は目標を上回った。	<本九島線>  【目標値差】▲2.2% (目標:35.5%) 【実績】33.3% (対前年差:+3.0%)(対前々年差:▲2.2%) 利用者が前年に比べ増加し収支率もやや改善したものの、人件費や物価の高騰により目標値に届かなかった。	<本九島線>  【目標値差】+2,379,958円 (目標:5,246,000円) 【実績】7,625,958円 (対前年差:+1,436,958円) (対前々年差:+2,379,958円)  愛媛県の利便増進計画による特例措置期間が満了となり、国庫補助の上限額が減少したことにより、市の負担額が増加したものの。	必要に応じてサービス内容(運行ルート、時刻等)を見直し、利便性向上に努める。

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画(又は地域公共交通計画)との関連について

令和8年1月 日

協議会名:	宇和島市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>(地域の概況) 宇和島市は愛媛県西南部に位置する、人口65,462人(令和7年12月末日現在)、面積468.16km<sup>2</sup>のまちである。西は入り江と半島が複雑に交錯した典型的なリアス式海岸が続き、5つの有人島と多くの無人島がある。東は1,000m級の鬼ヶ城連峰が海まで迫り、起伏の多い複雑な地形をしている。市街地や集落は海岸部の平野や内陸部の盆地に点在している。</p> <p>(宇和島市) 市内を運行する鉄道路線は、予讃線と予土線の二つのJR路線で、予讃線は当市から高松市までを、予土線は当市から高知県高岡郡四万十町まで運行されている。路線バスは、宇和島自動車株式会社により運行されており、市民生活に欠くことのできない移動手段として機能している。 当市の場合、宇和島駅が予讃線・予土線終着駅であり、当市以南には鉄道がなく、市役所や公立病院、学校施設などの主要施設が駅から離れて点在しているため、路線バスは生活するうえで極めて重要な役割を果たしているが、近年は人口減少やマイカーの普及による輸送人員の減少で、厳しい経営を余儀なくされており、やむなく廃止・再編された路線もある。 このように地域の公共交通を取り巻く環境が厳しい中、市民生活の利便性を確保し、公共交通の空白地域を解消するため、平成24年4月から「地域内フィーダー系統」としての運行を開始し、令和7年9月末の時点では、定時定路線型9系統、デマンド型3系統を運行している。</p> <p>(本九島線) 九島地区は、周囲約10km、人口685人(令和7年12月末日現在)の離島である。本土への交通手段については、1日9往復のフェリーが生活に必要不可欠な交通として機能していたが、平成28年4月に本土と九島を繋ぐ九島大橋が供用開始となり、当該航路(九島～宇和島)は廃止となった。また、平成29年4月からは島内唯一の小学校が廃止され、本土の小学校に統合されている。 このため、地域公共交通確保維持事業により、新たな交通手段として路線バスの運行(きさいや広場～本九島)を行い、地域住民の通院、通学、買い物を中心とした生活に必要な足を確保・維持していく必要がある。</p>